山下洋輔ニューイヤー・ジャズ・コンサート2007

初笑い新春寄席

漫才 テイラー・セシル ヨースケ

『あけましてフリー漫才』

五木正之

「さてさて今年もまたまたニューイヤー・コンサートの季節がやってまいりましたぁ。皆さ〜ん、新年あけまして、お……、お　……」

「……」

「新年あけまして、お……、お　……」

「……」

「おい、君、どないしたんや。僕が『新年あけまして』って言うたら、二人で声を揃えて『おめでとうございます』という段取りやったやないか。せやのに、君が声を出さんかったら、漫才はじめられへんやないか」

「そんなん、おかしい」

「おかしいって、何処がおかしいねん」

「せやかて、今年のニューイヤー・コンサートは、セシル・テイラーさんの登場やぞ」

「そないなこと、わかっとるわい」

「セシル・テイラーさんいうたらフリージャズの大御所やぞ。フリージャズいうても、無料（タダ）でジャズが聴けるちゅう意味やないぞ」

「当たり前やないか」

「そのフリージャズの大御所が、山下洋輔さんとデュオをやらはるねんで」

「せやから、どないやっちゅうねん」

「せやのに、僕らの前座の漫才が、一緒に声を揃えて『おめでとうございます』なんて、そんな型に嵌（はま）ったくだらんことでけるか」

「ほな、どないせえちゅうねん」

「僕らも、フリー漫才でいこ」

「そんなん、どないするねん」

「何やってもかまへんねん。たとえば……くるしゃやらの回数漫才」

「おいおいおい。君、身体が捻れとるがな」

「まわるやねん。とかりくん。スきてへれん」

「おい、ちょっと、姉、あっ、いつってもだめだ。やめなッさい!」

「ああ。捻れ死ぬかと思た」

「もう、けったいな奴っちゃなあ」

「まわるだけやないで。逆さになってもまれる逆さ立ち漫才。頭に血がのぼるう……」

「おいおい、大丈夫か、君……」

「まともに戻って、才漫ルベラトムイタ行逆間時的ンイタュシンイア」

「どこがまともやねん。逆さまから言うてるだけやないか」

「ほな、これはどうや。ヨタヨタチ鳥足漫才」

「それ、つまらん。行数もったいないだけや」

「ほな、もっと複雑なやつを。

ワ　旋ッ　D重　ソ漫
才ト　構リ螺ク　N二ク螺　ン的ト才
漫ソ造ク　重DAA　ッ旋ク造　ワ
的ン　二N　リ構」

「うわっ。君、器用に喋るやないか」

「もっと、でけるで。銀河宇宙フィボナッチ数回答回数漫才。」

「こらこらこら。はみ出てくるな」

「　」

「おいおい、急に黙りこんでどないしたんや」

「ジョン・ケージ4分33秒的無言漫才」

「それって、手ぇ抜いとるだけやないか」

「**うわああっ**と、突然驚かす絶叫漫才」

「うわっ。びっくりするやないか」

「ああああ。消えていく、消えていく　　漫才」

「あああ、消えたらアカン消えたらアカン。老眼の人が可哀相やがな」

「こ　　んな　　漫

　　才　　はじ

　　めて　　やろ」

「おい、大丈夫か」

「筒井康隆的登場人物半覚醒漫才兼全体漢字並列旧赤塚不二夫漫画的似而非中国語漫才」

「ええ加減にしなさい。そないにくだらんことばっかりしよったら、型にはめるぞぉ」

「それ……怖い」

「型にはめて東京湾にほりこんだろか」

「怖い。怖い。怖い。型にはめられるのん、いちばんイヤヤ……」

「ほんまに、けったいな奴っちゃなぁ。もう、君とは漫才でけんわぁ」

「ハハァ、サイナラァ……って、うわあ、型にはめられてしもたぁ。　助けてくれぇ……。型から抜け出したいいいい……。早よ、コンサート、始めてくだきあああい……。